

2025.01
Vol.03

うるびー報告書 合併号

あそびながらつくる！！だれでも参加型マガジン！

ASOBO

あそぼ



特集

沖縄うまんちゅ子どもの権利推進プロジェクト

「沖縄うまんちゅ子どもの権利推進プロジェクト」とは？

認定NPO法人ACE、一般社団法人URUFULL、NPO法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆいが沖縄県内で実施している、子ども・若者のウェルビーイング向上を目指すプロジェクトです。おとなや子ども・若者向けに「子どもの権利」やNVC(共感的コミュニケーション)を伝えるワークショップ、子ども・若者とおとなの対話の場などを企画・実施しています。

子どもの権利とは

子どもが生まれながらに持っている、子どもが成長するために必要な権利です。子どもはおとなと同じように人権を持っていますが、特別な保護が必要な存在でもあり、おとなや国には子どもの権利を守る責任があります。1989年に国際連合によりつくられた「子どもの権利条約」では、この大切な4つの権利が4原則と呼ばれています。

差別の禁止(第2条)

すべての子どもは、人種・性別・ことば・宗教・障がい・貧富の差・考え方・親がどういう人かなどによって差別をされません。

子どもにとってもっともよいことを(第3条)

国やおとなが子どもに関係のあることを行うときは、「その子どもにとってもっとも良いことは何か」を第一に考えます。

生きる・育つ権利(第6条)

すべての子どもの命が守られ、もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障されます。

意見を表し尊重される権利(第12条)

すべての子どもは、自分に関係のあるすべてのことについて自由に考えを伝えてよく、その考えは、子どもの年齢や成長をしっかり考えて受けとめられます。

参照：日本ユニセフ協会 (<https://www.unicef.or.jp/crc/>)

こども基本法

こども基本法は、日本国憲法および子どもの権利条約の精神にのっとり、全てのこどもが、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指し、こども施策の基本理念や実施について定めた法律です。この基本理念には、子どもの権利条約の4原則も反映され、この法律によって、2023年4月から、こども施策を実施する自治体は、こどもの意見を反映することが義務づけられました。こども家庭庁が中心となり、国もこどもの意見を聴く仕組みを充実させ、こどもまんなか社会の実現をめざしています。



こども基本法
こども家庭庁

動画やパンフレットがあるので、見てみてね。



もっと「子どもの権利」について知りたい／

子どもの権利条約ブックリスト

50冊の関連する書籍・絵本・雑誌が紹介されています。PDFはご自由にダウンロードしてご活用いただけます。
制作：「生かそう！子どもの権利条約出版社(有志)の会」第5版20231120



うるま市での活動報告

子どもの権利を子どもに伝える活動

わたしらしさを大切にする 子どもの権利ワークショップ

2024年2月 田場小学校5年生

2024年6月 天願小学校5年生

彩橋小学校5年生、6年生

11月 赤道小学校5年生、

特別支援学級・自立支援教室3～6年生

2025年2月 城前小学校5年生(予定)

中原小学校2年生(予定)

…P02

子どもの権利をおとなに伝える活動

「子どもの権利実践研修」

…P04

子ども・若者・おとなとの対話の活動

「うまんちゅしゃべり場」

STEP1～3 対話型ワークショップ

…P05

児童館、公民館へのかめパ号出動

…P15

わたしらしさを大切にする子どもの権利ワークショップ

子どもたち自身が子どもの権利を知り、自己肯定感を高め、自己を表現できるようになることを目的にしたワークショップです。(2023年ACEが開発)

内容は、NVC(共感的コミュニケーション)の考え方を取り入れて、一人一人が持つ「気持ち(感情)」とその奥にある「大切にしたいこと・願い(ニーズ)」を探したり、「子どもの権利条約」と「こども基本法」を紹介し、事例を通じて子どもの権利にはどんな権利があるかを学んだり、意見を表明するために具体的にどうしたらいいか、自分の気持ちと願いを大切にす、自分らしいメッセージをつくることにチャレンジします。



子どもの権利があると知ってどんな気持ちになる？

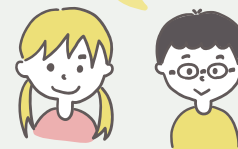
安心する

(権利が)こんなにいっぱいあるなんてびっくりした！

うれしい

ほっとする

自由でいいんだよという権利があってうれしかった



コラム 子どもの権利について “よくあるギモンと大切なポイント”

Q | 子どもが子どもの権利を知るとワガママになる？

A | 子どもの権利は、生きること・育っていくことに必要なことです。わがママになることとはちがいます。

Q | 義務を果たさないと権利はもらえない？

A | 子どもの権利は、子どもが生まれたときにすでにもっているものです。何かをするかわりに権利をもらえるものではありません。また、子どもの権利を守る義務は、親や学校の先生や国などにあります。

子ども・若者とおとなの「うまんちゅしゃべり場」とは？

国連子どもの権利条約を基本理念とした日本初の子どもの関連法であるこども基本法が2023年に施行され、自治体には子どもの意見を聴き反映することが義務づけられました。「子どもの意見を聴くってどうしたらできるのだろう？」と、うるま市で子ども・若者と、おとなたちが対話する場の試みとして提案したステップ1～3の活動が「うまんちゅしゃべり場」です。

STEP 1

子どもの権利実践研修＆対話グループワーク

日時 | 2024年7月29日9:00～12:00

会場 | うるま市健康福祉センター(うるみん)

プログラム | ①はじめに ②子どもの権利について ③子ども時代のウキウキとモヤモヤ
④こども基本法、子どもの権利条約と自治体の取り組みについて ⑤質疑応答
⑥子どもの気持ちになって話してみよう ⑦子どもとのコミュニケーション(休憩)
⑧子どもの声を聴くとは ⑨うるま市できこえてきた子ども・若者の声
⑩子ども・若者施策に関する悩み、子どもにききたいこと
⑪若者の声をきこう ⑫本日のおさらい

参加 | 18～30歳の若者7名

おとな16名(所属：うるま市社会福祉協議会、うるま市こども未来部こども政策課、うるま市防災広報対策部共生推進室、うるま市子育て包括支援課、うるま市議会、うるま市教育委員会、子ども支援団体など)

STEP 2

子ども・若者とおとなの対話型ワークショップ

日時 | 2024年10月5日(土)13:00～16:30

会場 | いちゅい具志川じんぶん館

プログラム | ①イントロダクション(ACEとURUFULLの紹介/セーフガーディングの説明/アイスブレイクのゲーム/参加者自己紹介) ②子どもの権利条約とこども基本法について ③気持ちと願いを感じて話してみよう(共感的コミュニケーション(NVC)ダイアログカードを使ったグループワーク) (休憩)
④うるまの子ども・若者のウェルビーイングワークショップ「うるま市がこうなったらいいな」

参加 | 15歳までの子ども8名、16～30歳の若者8名

おとな10名(所属：うるま市こども未来部こども政策課、うるま市議会、うるま市教育委員会、子ども支援団体など)

STEP 3

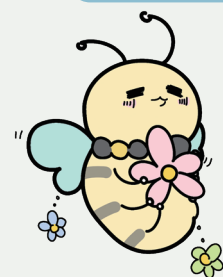
報告と対話の場 うるびーラジオ～みんなの声をきこう～(仮)

日時 | 2025年1月25日(土)10:00～15:00

会場 | うるま市健康福祉センター(うるみん) 「こども未来フェスタ」内
ラジオ形式でこれまでの活動を一緒に振り返りながら、うるま市の子ども若者のウェルビーイング向上のための参加者それぞれのアクションについて語ります。

後援 | うるま市、うるま市教育委員会

次のページから、ステップ1、2の内容と参加者の声をご紹介します。



STEP1 | 子どもの権利実践研修＆対話グループワーク

おとなの皆さんからの色々な質問にユースサポーターが答える形でグループに分かれて対話しました！

Q.



おとなから若者に
苦しいときにどんな場所、
人があったらいいか？



A.



若者からの回答

居られる場所

- ・苦しい時は自分のことしか考えられない。話せない。(手一杯)
- ・中学生以上になると、集まれる場所がなくなる。
- ・「居場所」と「あそぶ場所」はちょっとちがう。
- ・夜居られるところ

話せる場所

- ・外のおとなの意見が知れる。対話できる。
- ・ただ、きいてほしい。
- ・雑談に救われる。元気になる。
- ・知らない人とSNSではなすのこわい。直接話せる場所がほしい。



安心できる人

- ・否定しない人【絶対条件】
- ・子どもが大きくなったようなおとながいる場所。
- ・マジレス(※)されない関係。
- ※マジになってレス(答え)られる。正論で返される。

おとな参加者の声 (開催後アンケートより)

声を聴くことが最初になると思った！



若者と一緒に話し合える場が良かった。



権利(子どもの)について法律の話などから国・自治会の取り組みなど流れもわかりやすく、とても良かったです。



直接話ししながらの参加できる研修、貴重です。色々な部署、分野が参加した方がよい。

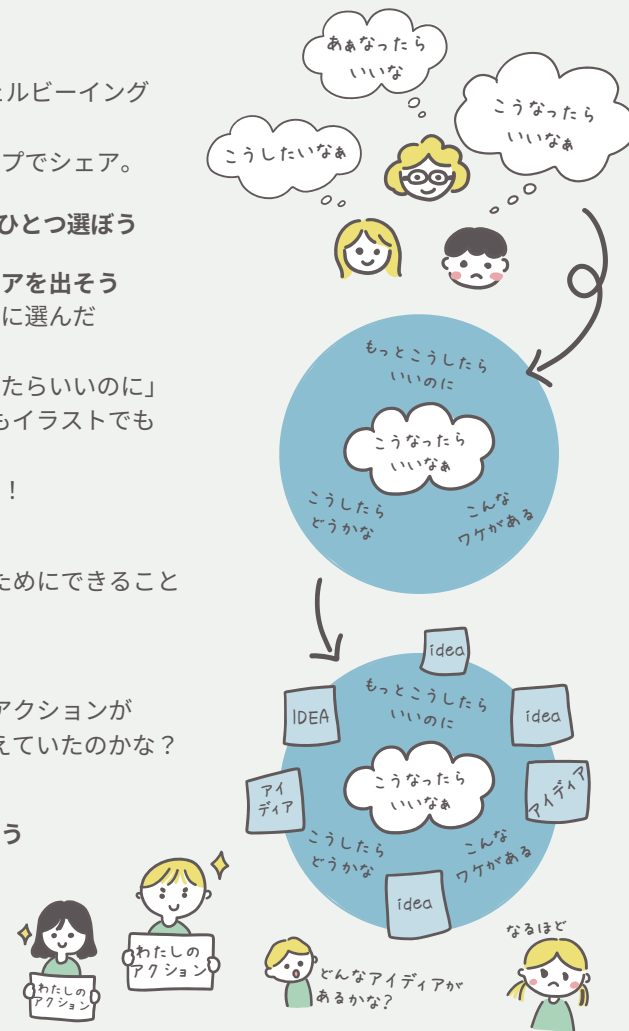
身近な出来事を権利条約と結びつけられてよかった。



「子どもの権利条約とこども基本法」の講義、「気持ちと願いを感じて話してみよう」のグループワークに続いて「うるまの子ども・若者のウェルビーイングワークショップ」を子ども・若者・おとなの混合グループで行いました。次のページから、当日の7グループの、まるい用紙「えんたくん」^(*)上での対話をご紹介します。

ワークの流れ

- 1 「こうなったらいいな」を思い描こう
 - ・2035年、うるま市が「日本の子ども・若者ウェルビーイングランキング1位」になっているとしたら？
 - ・「こうなったらいいな」を書き出して、グループでシェア。
- 2 グループで深めたい「こうなったらいいな」をひとつ選ぼう
- 3 どうしたら実現できるかグループでアイデアを出そう
 - ・まるい用紙の「えんたくん」を囲んで、真ん中に選んだ「こうなったらいいな」を置く。
 - ・「どうすれば実現できるか」「もっとこうだったらいいのに」アイデアを出して「えんたくん」に言葉でもイラストでもどんどん書いていく。
 - ・書いたものをシェアして、さらに書き足そう！
- 4 グループでアクションを書き出そう
ポストイットに、そのアイデアを実現するためにできることを
をどんどん書いていこう
- 5 ポスターセッション
 - ・どんな未来、どんなあったらいいな、どんなアクションが出たかな？他のグループはどんなことを考えていたのかな？
 - ・ぐるっとまわってみよう
- 6 自分の「まず一歩」のアクションを考えてみよう
グループで「わたしのアクション」をシェア



「えんたくん」の見方

書き出された内容は当日の言葉のままです。意味の通りにくいものもあるかもしれませんが、できるだけそのまま再現しています。一部子ども・若者や居場所のスタッフからの解説を加えているものもあります。疑問に思ったこと、気になった言葉があれば、そこから対話を始めてみませんか？

＊「えんたくん」とは、ワークショップや研修などで活用される、対話を生み出すためのコミュニケーションツールです。

対話の背景

中卒は自己責任？

高校の無償化が全ての子どもの進学を後押しできるわけではない。家族の生活を支えるために、学校に通う時間があるなら働きたい、という選択しかできない状況にある子も「進学しない」＝「学ぶ気がない」と見られてしまう。アルバイトしながら学費を稼いでやっと通信制や定時制を卒業したり、高卒認定試験に合格しても、履歴書で判断されてしまう。家庭環境やいじめ、発達特性など、本人の努力ではどうすることもできない不登校や進路選択の偏りが「個人」「家庭」の責任で終わらない社会に必要なことってなんだろう？

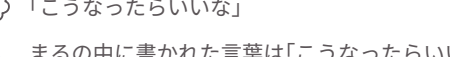


学校に行けなくなって、お金をかけずにできる時間潰しが絵を描くことだった。親くらいにし
か見せてなかったから、初めて
居場所でリアクションをもらっ
た時、うれしくてもっと技術を
磨こうと思った。



卒業してから居場所を紹介された。そこで、高卒認定試験のことを知った。もっと早く知りたかった。



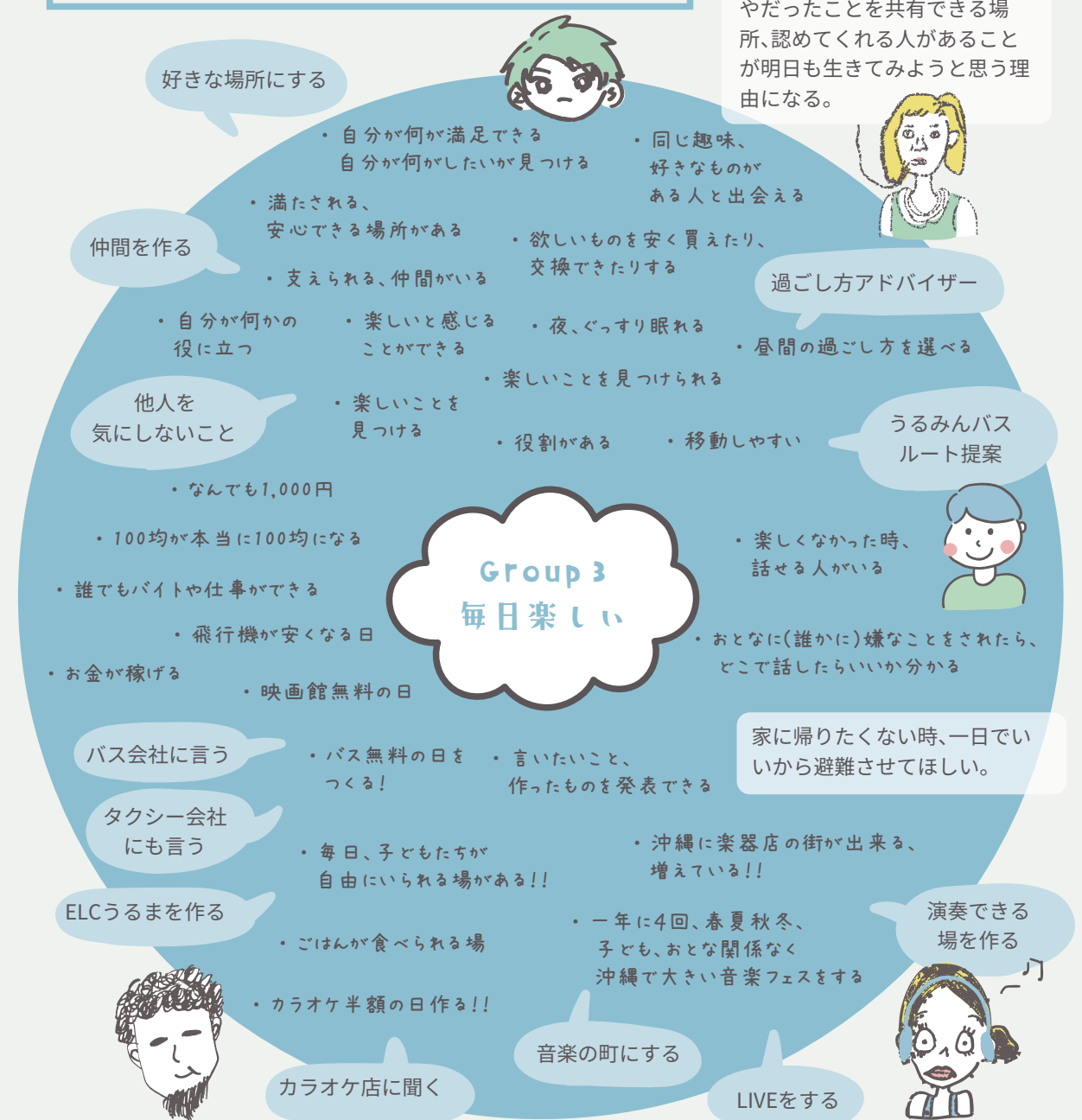
- 
- 「こうなったらいいな」
- まるの中に書かれた言葉は「こうなったらいいな」を実現するためのアイデアや課題
- アイデアを実現したり
課題を解決する具体的なアクション



バイトをしないと行けないので、拘束時間の多い部活はできない。行けるときに行くって出来たり、週1とか曜日固定できる部活があるといいんだけど、週末参加できないと居づらくなったりして無理だった。時々スポーツできる仲間や場所がほしい。

対話の背景

夜家でぐっすり寝られないって子は結構多い。家族がいつ暴れたりパニックになるかなど安心できない環境で夜を過ごしている子はいつどこで寝たらいいのかな。



「こうなったらいいな」



まるの中に書かれた言葉は「こうなったらいいな」を実現するためのアイデアや課題



アイデアを実現したり課題を解決する具体的なアクション

取り上げきれなかった「こうなったらいいな」

当日のワークショップでは深められなかった「こうなったらいいな」をご紹介します。
どうしたら実現できるか、ぜひアイデアを考えてみてください。



気軽に相談できるおとな！

お金がほしい

校則いらない。
ゆるくしてピアス OK、髪
色自由、まゆげ、ネイル OK

学校がきれいになっている

自然があふれている

子ども達が好きなこと、
やりたいことができている

文化が継承されて、
大事にされている

運転免許もとるのを
サポートしてもらえら

その子ども達も若者達も
自分の居場所が複数ある

無料でつかえる遊び場
相談できる。住める。
動物園。スポーツ施設。

学校が面白くなる

宿題なしで授業だけが
いいな～

街中にゴミが落ちていない

子どもにお金がかからない
好きなコトができる

毎日自由に子どもたちが
遊んだり、ごはんを
食べれる場所がある！！

地域コミュニティ再生
子ども、おとな、オジイ、
オバー仲良く

知ってる人も知らない人も
笑顔であいさつ

学校がなくなったらいいな

うるま市民全員があいさつ
したらしっかり返ってくる

引きこもりの居場所が
もっと増加してほしい

学校の教室をなくす

みんなが保護者
(子育てと地域みんなを
やれる社会)

心にゆとりがある
イライラすることが少ない

お金の心配がない

すべての子どもが笑顔
(やりたいことが叶う、
なんでも挑戦できる社会)

図書館が大きくて、キレイ

無料バスで県内どこでも
行ける

子どもとシングルマザーの
支援

ネイルサロン近くにほしい

差別のない社会

制服なくしてほしい

修学旅行とりもとし

つながりが増えるための
そういう社会作りの強化

外国にいつでも行ける
チケット

公園がきれいで使いやすい！

一家に1台、ロボットも！！

困ったときに話を聞いてく
れる人、助けてくれる人が
いる

校則は生徒が決める！！
毎年変わってもいい

選べる給食が出る

おとなと子どもが仲良し

学校は毎日行かなくても
怒られない。休憩の日（誕
生日とか）がある

毎日楽しい1日。おとなも

学校での発表がなくなっ
てほしい

スカート折ってもいい学
校にしてほしい

うるま市に遊園地がほしい
(ジェットコースター、アス
レチック)

わたしのアクション



若者

自分自身の考えや気持ちをまずはしっかり
理解する。考えてみる。
→他の人に共有する。広めていく。協力していく。

子ども・若者の意見をきき、できることを考える。

うまんちゅプロジェクトを「できる限り」いろんな人に
広める。ウェルビーイングを知ってもらう。

気軽に相談できるおとなが欲しい。
→まず身近なおとなに相談できるようになる！
→自分の悩みを話せるようになる！

進学支援制度を今より知る。

参加者アンケートでの声

子ども

色んな意見を見れて良かった。

自分がうるま市にはしい物という
自分の意見を言えて良かった。

若者

普段かわりのない方や、機会がないと
話すことない子どもと話せたので参加して良かった。

自分の意見を共有できて、楽しかったです。
他の人の「ウェル・ビーイング」について
知れたのもとても良かったです！

子ども

ひまそうな人がいたら声をかけて一緒にあそぶ。

コミュニケーションをとる。
あまり知らない人でもすすんで声をかけます。

制服なくす同盟を作る！！

おとな

うるま市に遊ぶ場所が欲しい子ども・若者が
大勢いるよ！という実態をヒアリングであつめて
次回企画にむけてまとめる。

誰でも居場所の考えを共有する。
無料バスの担当課へアイデアを伝える。
ふるさと納税クラウドファンディングを提案

月に2回はライブする。
ライブでもっと人とのつながりをつくる。

子ども達から、やりたいあそびを聞いて
一緒に実現させる。

居場所でどんな学びがあるかを社会に伝える。
また多様な学びとは何か？を問題提起し、
みんな考える場をつくる。

おとな

グループのメンバーの意見をきいて、
気付きが多かった。他のグループの意見、
考えは興味深いものがあった。
若い世代の意見が参考になった。
もっと早く居場所に出会うことが出来たら、、、
という若者のコメントが心に残った。

対話の場の必要性を感じた。
アイデアが重なるおもしろさがあった。

出張！対話の場 子どもに聞いたよ！みんなのウェルビーイング

うるまの各地で一緒にあそんでおしゃべりしながら、いろんな場所で聞こえてきた小さな声たちです。

おしゃべりした場所

みどりまち児童センターのみなさん
みやぎこどもひろばのみなさん
若者居場所あつぷるむのみなさん
拠点型こどもの居場所 わーわ田場のみなさん
その他、移動公園かめパーク号で遊んだみなさん



学校で「子どもの声を聞くアンケートをやる」と聞いて、「不登校の子は聞いてもらえないのかなって思ったけど、こうして直接話す場に市役所の人も来てくれているのを知って安心しました。

中高生が気軽に集まれる無料の場所がほしい



雑談に救われる。元気になる。
なんでもないことを直接話せる場所がほしい。

役所の中に気軽にいれるところがあるといいかも。
直接話して、少しこわさが減ったから。

夜、居られる場所をつくらせてほしい

気軽に参加できる、スポーツのイベントがあるといいな。

昼夜逆転って、すきにしてもらってほしいけど、すきでそうなったわけじゃないって子も結構いると思う。。



学校行けない、家から出られない時に先のことを聞かれてもつらいうってこと、知ってほしい。

別室登校していたとき、放置されていると感じた。
みんな忙しそうだった。
自分が行かない方が先生は楽なのでは? と思った。



寝たくても寝れない家、帰るのがこわい家があるって知らないおとなとは話したくない。かなしくなるから。

いきものはなしがたくさんできてうれしい



学校に行けなくてつらい子が居られるように、私も迎える人になりたい

かめパーク号がきて、ベイクレードが初めてやれてうれしかった。



ブランコがほしいですけど、すくない。

お菓子を買いだめしたり、あそべる場所

うみをきれいにしてくれ、かめをまもりたい

楽器練習とか、バンドしたい



ダンスをしているときは全部忘れられる



移動公園かめパーク号とは？

子どももおとなもだれでも一緒にあそぶ場づくりをうるま各地で展開するちいさなトラック。

うるびーユースサポーターが東京の居場所へ行ってきました！

視察研修の目的

うるま市内の子ども居場所ネットワーク
づくりやこども若者の声を聞く地域づくりの
ヒントを得る

参加メンバー

大人組
うるま市内の居場所職員
ユース組
自分の育った地域の
こどもの居場所や
児童館をスタッフや
ボランティアとして
支えているメンバー

大人スタッフ



ユースサポーター



うるびーユースサポーターって(・・・?)

子どもの権利普及やウェルビーイングな地
域づくりを目指すプロジェクトに参加する
Uー25のメンバー。



デザイン:うい&向葵



行ったところ

- 東京都(中野区、荒川区、練馬区)
- ① キリンホールディングス本社(キリン福祉財団訪問)
- ② 一般社団法人子ども村ホッとステーション
あらかわ子ども応援ネットワーク
- ③ なゆたふらっと
- ④ 子どもの権利条約フォーラム 2024 in 東京



東京都 荒川区 子ども村ホッとステーション

小学3年生～高校生まで利用しています。毎週木曜日に活動しています。

荒川区はうるま市の8分の1の大きさで2倍の人口だそうです。

私達がお話を聞きに行ったとき、ちょうど勉強の時間でした。

小学生～高校生の子ども達が同じ机を囲んで一緒に勉強していて、分からない
ところを教えあっていてとてもいいなと思いました。

お話を聞いた中で「貧困」というフレーズが出てきたのですが、経済的な問題のことを貧困というと思って
いたのに、お金があっても心の寂しさが「貧困」になるということを知りました。ライター:さくら

子ども村ホッとステーションさんは
独自のネットワークや行政、さまざまな機関と連携が取れているようで
その子にあった対応ができてみたいだった



ひめ



東京都 練馬区

なゆたふらっと

不登校の子ども達の居場所として、5人の親と5人の子どもから始まった居場所です。
毎週火曜日と金曜日に活動しています。

代表の鈴木さんから色々なお話を聞くことが出来ました。

なゆたふらっととはとても暖かい雰囲気です。鈴木さんとお話をしている時、こちら
を利用している子が、ボランティアさんのお手伝いをしていて、私達に飲み物を出
してくれたことがとても印象に残っています。

いろんなお話を聞いて、「自分が選んだことを大事にしてい」という言葉があり、「学校に行かない」という
選択をしたことで自分自身に「自信」がもてていなかったのが、この言葉を昔の自分に伝えたいと思いました。



ひめ

なゆたふらっとさんは
地域の方の協力もすごいが
特に保護者の行動力がすごく高く自分たちで居場所を増やしているみたい

ライター:さくら

はじめて県外へ出てみたら...

東京に行ってみて思ったのが、
交通アクセスの良さ! (駅、路面電車、バスなど)
車がなくても色んなところに行ける!

どの居場所も人が沢山来てそれだけ周りに
知られていることに驚いた

居場所や子ども食堂のイメージがいいというか、
地域に受け入れられている感じがした。



主語がでけえな 子どもの権利



原文:さと8

構成:やぶ

こんにちは! 元子どもです。
突然ですが、皆さんは子どもの権利と聞いて何を想像しますでしょうか?

最近では子どもたちとの対話が以前より重要視されてきているようです。

その際子どもたちからいろいろなやりたい事や

「こうなってほしい」などの話も出るでしょう。

その中にはすぐ叶えることが難しい願いや無理な希望もあるでしょう。

しかし! それでOK!

何故なら子どもの権利とは大人が子どもの願いを全て叶えるためのものではないからです。

子どもだろうが大人だろうが人です。ですが、子どもたちの生活を決めているのは大人です。

なので大人が子どもの生活に関わることを勝手に決めるのではなく子どもたちも一緒に対話
し、考えてできることから実現しよう! って事です。

その願いが、希望が、小さなつづやきがどんな気持ちから出てきたのか、

互いに聴き合うことから始めませんか?

主語が大きすぎてピンとこないなら、身近な誰かや目の前のその子を主語にして

考えてみませんか?

以上、元子どもたちからでした。

沖縄うまんちゅ子どもの権利推進プロジェクトの中の
うるま市での子ども・若者のウェルビーイング向上を目指した活動を、
「うるびー」プロジェクトと呼ぶことにしました。
共に活動する若者「ユースサポーター」も募集中です。



マスコットキャラクター
「うるびー」ちゃん

沖縄うまんちゅ子どもの権利推進プロジェクト

運営団体



認定NPO法人ACE



NPO法人沖縄青少年自立援助
センターちゅらゆい



一般社団法人URUFULL

助成団体

この冊子に収められている活動は、ACEならびにURUFULLが受けている以下の財団からの助成を活用しています。



一般財団法人デロイト トーマツ
ウェルビーイング財団



公益財団法人
トランスコスモス財団



公益財団法人
キリン福祉財団

ASoBo
Vol.03

うるびー報告書 合併号

企画制作 | 沖縄うまんちゅ子どもの権利推進プロジェクト「うるびー」
デザイン | 牧山萌 / URUFULL広報デザイン部のみなさん
発行者 | 沖縄うまんちゅ子どもの権利推進プロジェクト
発行年月日 | 2025年1月

asoboとは

子どもに届く、手に取りたくなる、一緒に創りたくなる、あそびながらつくるだれでも参画できるフリーペーパーです。うるま市社会福祉協議会の「居場所の情報が子どもたちに届く冊子を！」という想いから誕生しました。